

乳がん高度検診・治療センター

NEWS No.119

わが国の乳がんの現状

乳がん高度検診・治療センターニュースでは定期的に乳がんの統計情報をお届けしていますが、前回より少し間が空きましたので、最近の動向について解説します。がん統計は公表までに時間を要し（とくに罹患数）、2024年4月現在入手可能な最新情報は罹患データが2019年、死亡データが2022年のものです。これとは別に2023年の罹患数および死亡数の予測値も提供されていますが、こちらはあくまで推計値ですので、実数である罹患数および死亡数についてご紹介します。

乳がんは今なお増え続けているのか？



出典はいずれも、国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」です。

https://ganjoho.jp/reg_stat/index.html



2019年に乳がんにかかった人の数は97,142人

（女性のみ）でした。女性のがんのトップであり、増加の一途をたどっていることには変わりはないのですが、近年その増加速度は鈍化してきています。とは言え、2位の大腸がん（67,753人）を大きく引き離し、乳がんの罹患数は突出しています。年齢別にみると、45歳までは罹患率が急増し、45～69歳の間にピークがあり、その後は横ばいないしは緩やかな減少傾向を示します。乳がんは決して高齢者のがんではないので社会的影響も大きいわけです。

なお、女性のがん罹患数の3位以下は、肺がん、胃がん、子宮がんの順になっています（表1）

死亡率は？

2020年に乳がんで亡くなった人は15,912人（女性のみ）で、こちらもわずかに増加していますが、死亡率のピークが高齢化していることが反映されているようです。乳がんによる死亡者数は女性のがん死亡のうち、大腸がん、肺がん、膵臓がん、について第4位です（表2）。実は数年前までは胃がんが4位で乳がんは5位でしたが、この両者の順位が入れ替わりました。ただ、これは乳がん死亡数の増加以上に胃がん死亡数の減少の影響が大きいと思われる。

表1

女性のがん
罹患数の順位（2019年）

- 1 乳がん
- 2 大腸がん
- 3 肺がん
- 4 胃がん
- 5 子宮がん

表2

女性のがん
死亡数の順位（2022年）

- 1 大腸がん
- 2 肺がん
- 3 膵臓がん
- 4 乳がん
- 5 胃がん

罹る人がもっとも多いのに死亡率で4位ということは、乳がん全体としては比較的なおりやすいがんということでもあります。

Check Point!



乳がん検診受診率は？

国民生活基礎調査による推計値では2022年に40～69歳での乳がん検診受診率は47.4%で、少しずつ上昇しています。ただ、国の掲げる「がん対策推進基本計画（令和5年、第4期）」で掲げる60%以上という目標には今一步届きません。都道府県別にみると、大阪府は検診受診率が国全体の平均を下回っており、残念なことです。

当院の乳がん高度検診・治療センターは、開設当初より検診事業にも力を注いでおり、是非まわりの方も誘って受診していただければと願っています。

乳がん以外に、表1、2に示したがん*についても対象年齢に達したら随時検診をうけられることをお勧めします。

*膵臓がんについては現在、指針として定められた検診システムはありません。

